様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 15 日現在

機関番号：14501
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20530691
研究課題名（和文）　西洋養生思想における「身体」と「心」の教育概念史

研究課題名（英文）　History of educational concepts on body and mind in the Western dietary thinking

研究代表者
白水　浩信（SHIROZU HIRONOBU）
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授
研究者番号：90322198

研究分野：西洋教育史
科研費の分科・細目：教育学・教育学
キーワード：教育思想、西洋古典、教育の原義、養生、骨相学、能力

１．研究計画の概要

（１）本研究は、ラテン語・ギリシア語の電子テクストを活用することにより、西洋養生思想史における「身体」と「心」に関連する語彙の用法を分析し、教育という観点から概念整理するものである。

（２）上記（１）の研究で得られた成果を近現代における身体観、精神観と対照すべく、16 世紀英国の家政論、19 世紀英仏国の骨相学、さらに 20 世紀米国の精神衛生運動と比較する。

（３）以上を踏まえ、近代以降、顕著な教育統治論であったポリス論における身心観、その具体的表明である「能力」言説について歴史的分析を加える。

２．研究の進捗状況

（１）①当初、BTL4 を用いて、著述家ごとに用例分析を進めた。例えばストア派の場合、anima は生命そのものとして捉えられ、意志とは関係のないものとして相対することになるのだが、animus に関しては鍛錬の技法、平静を得るための配慮が様々な形で示されており興味深い。

②次に分析したのが educatio の用例である。それはラテン語では〈食〉を核とした子どもを養い育てる営みとして想念され、この〈養生〉としての educatio はキケロとコルメッラの用例では特に顕著である。またキケロ『法律について』では、disciplina との対句が存在し、プラトンが好んで用いたギリシア語 τροφή と παιδεία の対句表現と対応していることが判明した。このような指摘は、従来の西洋教育史研究にはみられない画期的な成果である。education の語源 educatio は、能力や可能性を引き出すこととは関係がなく、τροφή と軌を一にする、子どもを食べさせ、その身体を大きくすること、すなわち生命を養い＝守る営みとしてあったのである。

（２）①16 世紀英国家政論には、ラテン語から英語に移植された当初の education の用例をみることができる。そこでも古代の養生の文脈が健在であり、とりわけ授乳とのメタファーは興味深い。

②19 世紀骨相学の分析により、人間観の根底に据えられた「能力」という観念とその歴史的意義が明らかになってきた。骨相学という歴史的契機によって、人間を能力によって表象すること、そして教育(education)によって能力を開発するという発想は決定的に大衆化することになる。

（３）18 世紀オーストリアで著されたフォン・ユスティの『ポリツァイ学の基本原理』を読解分析することにより、近代ポリス論において教育が能力言説に絡め取られていった歴史的過程、ポリスによる教育統治の一端を明らかにすることができた。

３．現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

当初、主に想定していたのは単純に「身体」と「心」に関連する語彙を教育という見地から整理することであった。ところが、educatio という基本的な教育概念の分析を試みることで、それ自体が「身体」を養い育てることであることが判明し、期せずして近代以降の精神主義的教育観の偏狭さを浮き

彫りにすることができた。また骨相学に関する知見を増したことで、近代教育学が依存してやまない「能力」概念はその核心にあってわれわれの教育に関する思惟を規定していることも分かってきた。今日の教育言説の閉塞状況を打破し、本研究の最大の成果であるτροφή－educatio の原義を取り戻すことによって、教育学再生の道が拓かれると確信するからこそ、上記のような高い自己評価を付すことにした。

４．今後の研究の推進方策

（１）次年度は最終年度でもあるので引き続き、多様な電子テクストを駆使しながら、基本的な「身体」と「心」に関連する語彙を分析したい。その際、新たに次の点を検討課題として加える。

ギリシア語およびラテン語における「能力」の用例。アリストテレスはもとより、どのような文献で、どのような形で言及されるのか。それはまた、どのような「身体」と「心」の関係を前提とするものなのか。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①白水浩信「教育・福祉・統治性――能力言説から養生へ」、『教育学研究』日本教育学会機関誌、査読有、第 78 巻第 2 号、2011 年（掲載決定）

②平野亮「F・J・ガルの学説に見る骨相学の人間観」、『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』、査読有、第 4 巻第 1 号、2010 年、37-46 頁

③平野亮「19 世紀西洋における骨相学の人間観」、『日本教育学会第 68 回大会発表要旨集録』、査読無、2009 年、172-173 頁

④柴田賢一「初期近代イングランドの教育に関する文献」、『教育科学論集』、第 12 集、査読無、2009 年、19-26 頁

〔学会発表〕（計 1 件）

①平野亮「19 世紀西洋における骨相学の人間観」、日本教育学会第 68 回大会、2009 年 8 月 28 日、東京大学（東京都）

〔図書〕（計 0 件）